

歓迎の言葉

うららかな光を浴びて、高田公園の桜も美しく開花し、春の到来を感じる季節となりました。

本日、上越教育大学附属中学校に入学する107名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

私たちは、皆さんと初めて出会うこの日を、楽しみにしていました。

中学校という新天地に足を踏み入れた今、皆さんはどのような気持ちでいますか。きっと、附属中学校に入学できた喜び、これからの学校生活への期待をおおいに感じていることでしょう。その一方で、慣れない環境へ身を投じることによる不安を抱いている人も多いと思います。実は、私もはじめはそうでした。でも、その不安の気持ちはすぐになくなるでしょう。それは、附属中で過ごす毎日はとても楽しく充実しているからです。

まず、5月には最初の大きな行事、春の合唱コンクールがあります。附属中の合言葉の1つ「響く歌声」を象徴する合唱は附属中が大切にしてきた伝統です。それぞれのクラスで美しい調和の歌声を作り上げる感動は素晴らしいものです。また、合唱を通じて新しい学級の絆を作ることができる、そんな行事でもあります。

他にも、学年を超えて応援・競技に熱く燃える体育大会。普段とは違う学校へ様変わりする桜城文化祭。これ以外にも修学旅行やスキー合宿など、多くの行事が学校生活を充実させ、私たちを1歩ずつ成長させてくれます。

行事だけではなくありません。委員会など普段の生徒会活動も私たちの活躍の場です。生徒が中心に、精一杯議論する。自由度の高い環境で活動することで私たちの主体性や共創性が磨かれていきます。

そして何よりも、仲間と関わり合うことを大切にしたい毎日の授業があります。関わりの中で、同じ志を持って入学してきた仲間、個性豊かな仲間が絶えず自分自身に刺激を与え、新しい世界を見せてくれます。また、iPadを1人1台を持っているこのICT環境はここ附属中にしかないものです。昨年にはアップルの認定校にもなり未来の教育の先駆けとして全国から注目されています。

このようにたくさんの魅力であふれている私たちの附属中学校です。この学びの場を最大限に生かすために必要なことは「附中生としての自覚と誇り」を持つことだと私は考えています。

「自覚や誇り」を持つためにはどんなことにも「前のめりに」「全力で」取り組むことが大切です。そうすれば、附属中での生活は、必ず笑顔あふれる充実したものになります。入学した今、胸の中にある気持ちを忘れずにこれから活動していきましょう。

中学生になり、新たな生活をスタートさせる皆さんを私たち先輩も全力で応援します。何かあったらいつでも頼ってください。私たちも皆さんの憧れでいられるよう努力していきます。

2020年度、新型コロナウイルスの影響もあり、落ち着かない中でのスタートですが、新入生を含めた全校生徒321名一丸となって良い一年にしていきましょう。

以上、歓迎の言葉といたします。

令和2年4月7日 生徒代表 鹿ノ内陽介